



(別添)

2021年1月28日
NITE(ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
中国支所

News Release

**冬の死亡事故に注意！除雪機で19件、一酸化炭素中毒で17件
～除雪機の安全装置を正しく使う、発電機は室内で使用しない、
温水機器や暖房器具使用時はこまめに換気する～**

— 中国5県版 —

1. 雪・凍結に伴う事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、雪・凍結に伴う事故^{※2}は、中国地方5県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)では2010年度から2019年度までの10年間に5件^{※3}ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) 除雪機などでの事故、積雪の影響や凍結により発生した事故。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数を示します。

表1 「年度別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2010年度						0
2011年度	1			1		2
2012年度						0
2013年度						0
2014年度						0
2015年度						0
2016年度	1					1
2017年度						0
2018年度	1		1			2
2019年度						0
合計	3	0	1	1	0	5

(2) 中国 5 県の被害状況別 事故発生件数

表 2 に「被害状況別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数を示します。

表 2 「被害状況別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数

被害状況 ^{※4}		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡						0
	重傷	1					1
	軽傷						0
物的被害	拡大被害	2		1			3
	製品破損				1		1
被害なし							0
合計		3	0	1	1	0	5

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国 5 県の事故原因区分別 事故発生件数

表 3 に「事故原因区分別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数を示します。

表 3 「事故原因区分別・県別」雪・凍結に伴う事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの						0
B：製品及び使い方に問題があったもの	1					1
C：経年劣化によるもの						0
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの						0
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの	1					1
F：その他製品に起因しないもの	1					1
G：原因不明のもの（G3を除く）			1	1		2
H：調査中のもの						0
合計	3	0	1	1	0	5

2. 一酸化炭素の事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、一酸化炭素の事故^{※2}は、中国地方5県（鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県）では2010年度から2019年度までの10年間に4件^{※3}ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※2) 閉塞（へいそく）による不完全燃焼や給気不足による不完全燃焼などによって一酸化炭素が発生し一酸化炭素中毒になる事故。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表4に「年度別・県別」一酸化炭素の事故発生件数を示します。

表4 「年度別・県別」一酸化炭素の事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2010年度				1		1
2011年度				1		1
2012年度						0
2013年度		1				1
2014年度						0
2015年度						0
2016年度						0
2017年度			1			1
2018年度						0
2019年度						0
合計	0	1	1	2	0	4

(2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表5に「被害状況別・県別」一酸化炭素の事故発生件数を示します。

表5 「被害状況別・県別」一酸化炭素の事故発生件数

被害状況 ^{※4}		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡		1	1			2
	重傷				1		1
	軽傷				1		1
物的被害	拡大被害						0
	製品破損						0
被害なし							0
合計		0	1	1	2	0	4

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表6に「事故原因区分別・県別」一酸化炭素の事故発生件数を示します。

表6 「事故原因区分別・県別」一酸化炭素の事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの						0
B：製品及び使い方に問題があったもの						0
C：経年劣化によるもの						0
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの						0
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの		1		2		3
F：その他製品に起因しないもの			1			1
G：原因不明のもの（G3を除く）						0
H：調査中のもの						0
合計	0	1	1	2	0	4

3. 事故事例の概要について

中国5県で発生した冬の事故の主な事例を示します。

① 凍結膨張と水漏れにより発生した火災事故。

2011年8月（鳥取県、60歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

石油給湯機で浴槽に給湯し続けたまま長時間放置していたところ、当該製品を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

長期間不使用の状態を続けていたにも関わらず、缶体の水抜きを行っていなかったことから、缶体内の水が凍結膨張を起こし、缶体から漏れた水が内部配線の接続端子台を腐食し、発熱、配焼損して火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「長期間使用しないときは機器内の水抜きを行い、電源プラグを抜く」旨、記載されている。

② 排気、換気不足により一酸化炭素が発生した事故。

2011年2月（広島県、年齢・性別不明、軽傷）

【事故の内容】

使用者が石油ストーブを使用中に気分が悪くなり、一酸化炭素中毒の疑いで病院に搬送された。

【事故の原因】

石油ストーブの排気口の上に載せられた防熱フードにより排気が妨げられ、メインバーナーの内部には蜘蛛の巣等が詰まっていたため、不完全燃焼となり、当該製品使用時に室内の換気が行われていなかったことから、室内の一酸化炭素濃度が上昇して事故に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「排気口をふきん等で塞がない」、「使用と同時に換気扇を回す等して空気を入れ替える」旨記載されていた。

③ 就寝中に石油ストーブの一酸化炭素中毒で死亡した事故。

2013年12月（鳥根県、60歳代・男性、死亡）

【事故の内容】

石油ストーブを使用していたところ、一酸化炭素中毒で1人が死亡した。

【事故の原因】

燃焼空気取入口に多量の埃の堆積がみられたことから、火力を最小燃焼として密閉された室内で使用したため、給気不足から不完全燃焼状態となって一酸化炭素が発生し、就寝中で異常に気づかず、一酸化炭素中毒で死亡したものと推定される。

4. 冬の事故の実験映像について

冬の事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてくだ
さい。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所

担当者：東瀬、折田

電話：082-211-0411

以上